

ふるさとの昔話



私たちの郷土、富士市の誇りは、なんと言っても日本一の富士山です。富士山にまつわる話しは、昔からいろいろ言い伝えられています。この富士山の話をもとめた本、おさなごに聞かせたい「富士山のはなし」の中から、ひとつ紹介します。

姉さん思いの駿河富士

ずっと昔、駿河の国の富士山と、下田の国の富士山とは姉妹でした。

下田の富士山がお姉さんで、駿河の富士山が妹でした。

二人は小さい頃から仲良しでしたが、お姉さんの下田富士はあまり美しくありません。妹の駿河富士は「ほんとうにきれいだ。」とみんなにほめられていました。それを聞いて、下田富士は天城山の山陰にかくれてしまいました。

姉さん思いの駿河富士は、姉さん恋しさに毎日毎日背のびをして、その度に背が高くなりました。

こうして駿河富士の方が姉さんよ

り背が高くなったという評判が広まると、あちこちの山が「負けるものか。」と背くらべをしました。

津軽の富士、八丈の富士、磐梯山、白根山と次々に背くらべをしましたがみんな負けてしまい、駿河の富士は日本一のお山になったとき。



学校教育課指導主事 西野七六九さん

この本の編集委員の一人、西野さんは、富士に生まれ育った子どもたちが、将来「富士山と共に育つんだ」と心に残ればとの願いをこめ編集したそうです。

地名の由来

田子浦



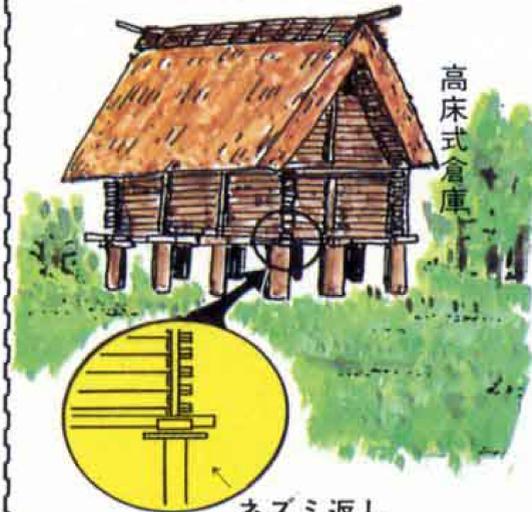
田子浦村は明治22年3月1日前田村・柳島村・川成島村・宮島村・五貫島村・中丸村・田子村・鮫島村の8ヶ村が合併して出来た村です。田子浦という村名にしたのはすでに奈良時代からこの附近を田子浦と呼んでいたからです。

田子とは、塩を作るときの垂籠から田子となったものであろうという説があります。

郷土の遺跡



古代人とネズミ



高床式倉庫

ネズミ返し

今年は何年。ネズミといえば台所を荒らす、天井裏を走り廻る、時には伝染病を運ぶなど、私達がネズミと共存して以来、悩まされています。

弥生時代の人々も、苦勞をして作った作物をたびたびネズミに荒らされてきました。そこで大切な食べ物をネズミから守るために立派な倉庫を考えました。

それが伝法の東平遺跡でも発見され、静岡の登呂遺跡で復元されている高床式の倉庫です。

床を地面から上げ、取りはずしできる階段を付けた、倉庫の最大の特徴は、ネズミ返しです。

このネズミ返しにより、さすがのネズミも柱を登ったものの乗り越えることはできず、倉庫の食べ物は無事、守られました。

私達の祖先の生活の知恵は、素晴らしいですね。

こちら編集室

新しい年となりました。今年は何年。スタッフ一同ネズミのように小まめに取材活動を行いますのでよろしく。次回からは、「郷土の遺跡」に変わって、「古墳の話」をシリーズで紹介いたします。